

# 「幼稚園実習における弾き歌い及びピアノ演奏について」

## 平成27年度アンケート調査分析結果報告

About singing to a musical instrument in the kindergarten training  
and a piano performance.

2015 questionnaire analysis report

鈴木 佑未子(千葉敬愛短期大学)

Yumiko SUZUKI

(要旨)

短期大学における養成校の2年次には、責任実習を含む3週間にわたる本実習がある。入学時、初学者だった学生が、それぞれに努力をして身につけた技術や知識をもって、現場を経験しに行く。実習前には、「自分ができるかできないか。」という主観に基準のあった学生が、現場を経験し、どのように意識が変わり、現場ではどのような音楽技術が必要と考えたかを知る必要があると考え、アンケート調査を行った。その結果から、ピアノ初学者から現場で使える音楽技術を身につけるための授業内容を考察した。

(キーワード)

音楽教育、ピアノ教育、弾き歌い、初心者、幼稚園実習

### 1. はじめに

幼稚園及び保育園現場で、子ども達と共に歌ったり、リズム遊びをしたりする「音楽」は、重要な時間であると共に、多くの子どもの好きな時間でもある。その時間を持つために必要な音楽技術の習得は、資格取得や現場に立つことを望んで入学してくる学生にとって大変大きな課題となる。

その技術の中心となる「弾き歌い」、「ピアノ演奏」の知識、技術の習得は、何を目的にしているのだろうか。当然ながら「現場で使える実力を付ける。」ことだと考えるが、では、「現場で使える実力」とはどのようなものだろうか。「その曲が弾ければ○弾けなければ×」という判断基準がその力を付けられる方法なのだろうか。入学時、音楽経験のない学生も、何某かの経験を持つ者も、共に目指す「現場で使える実力」とはどのような力と考えられるだろうか。疑問は尽きない。

筆者の勤務する千葉敬愛短期大学の2年生は、5月から6月にかけて責任実習を含む本実習が3週間にわたって行われる。学生がそれぞれに努力をして身につけた技術や知識をもって、現場を経験しに行く。今回、実習前には、「自分ができるかできないか。」という主観に基準のあった学生が、現場を経験し、どのように意識が変わり、現場ではどのような音楽技術が必要と考えたかを知る必要があると考え、アンケート調査を行った。

#### (1) 調査概要

**a. 目的** 短期大学2年生の幼稚園実習後の弾き歌い及びピアノ実技に関する意識を調査し、学生の苦手とすることを具体的に知ること、また現場で必要と考えられる音楽技術を探り、今後の授業内容の工夫と充実を図る。

**b. 方法** 千葉敬愛短期大学2年生 保育内容の研究

「音楽表現」(半期、選択)授業内においてアンケート調査 回答173名、(180名中当日欠席7名)

c. 具体的な回答方法 当てはまることには○を付け、複数回答可とし、書き込み欄にはより具体的に書き込むこととした。

d. 実施日 2015年7月7日、8日、13日

e. 実施者 谷中優 教授

f. 製作者 鈴木佑未子(本名:鈴木由美子)

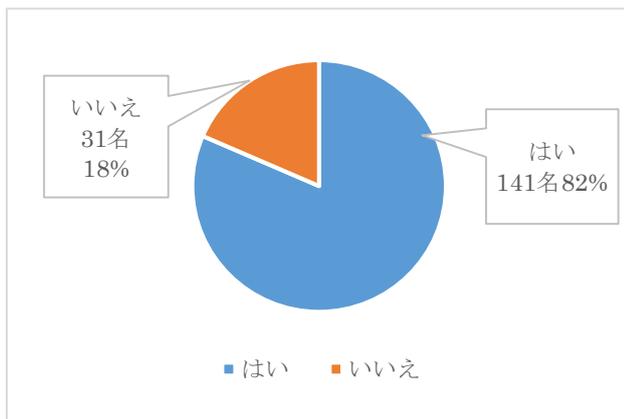
鈴木はピアノの非常勤講師のため学生全体に触れることがない。そのため、谷中教授にご協力を頂いた。

※尚、アンケート内のそれぞれの意見については、全て原文のまま記載した。

## (2) 調査結果

1、今回の実習にあたり、事前のオリエンテーションで音楽の課題曲はありましたか？

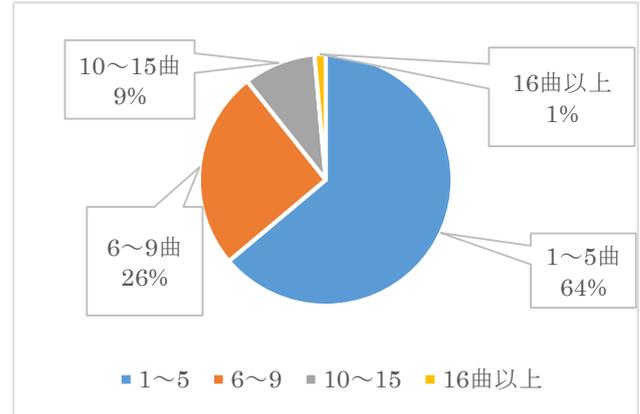
①はい 141名 ②いいえ 31名



1a、何曲出ましたか？(「はい」と解答した方)

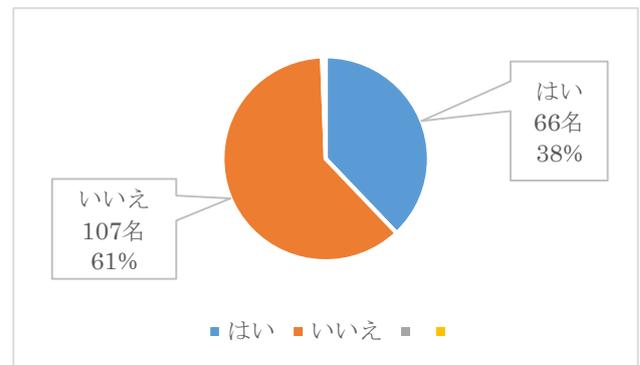
①1~5曲 90名 ②6~9曲 36名  
③10~15曲 13名 ④16曲以上 2名

※曲目として、主に季節の歌(あめふりくまのこ、あまだればったん等)、生活の歌(はをみがきましょう、おべんとう等)に分類されるもの、または実習園に由来する曲(園歌等)であった。



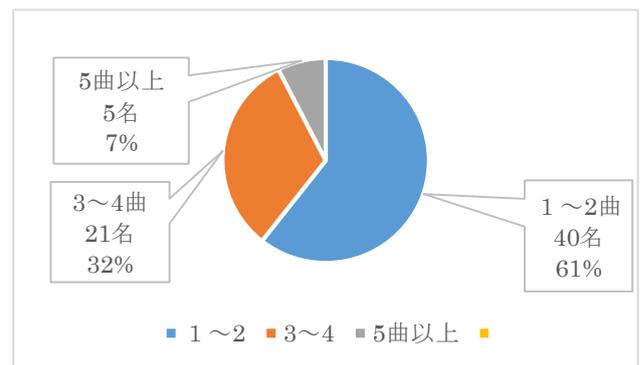
2、実習が始まってから、課題曲は出ましたか？

①はい 66名 ②いいえ 107名



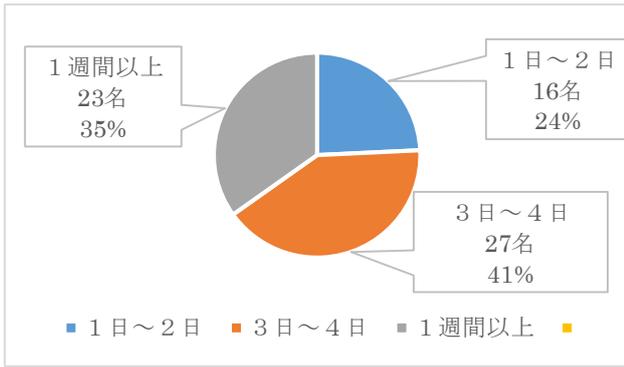
2a、何曲出ましたか？(「はい」と解答した方)

①1~2曲 40名 ②3~4曲 21名  
③5曲以上 5名



2b、子どもたちの前で弾くまでの練習期間はどのくらいありましたか？(曲を頂いた日を含む)

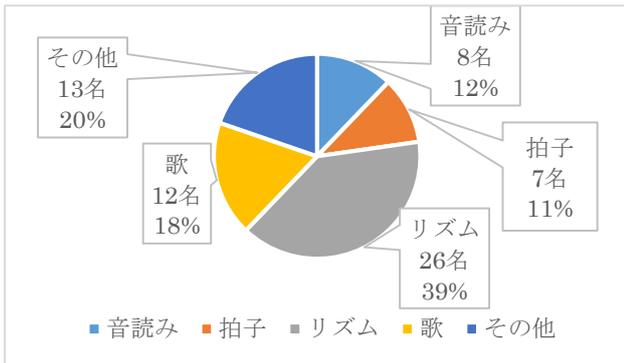
①1日~2日 16名 ②3日~4日 27名  
③1週間以上 23名



2c、その時の練習で困ったことは何でしたか？

- ①音読み 8名                      ②拍子 7名
- ③リズム 26名                    ④歌 12名
- ⑤その他 13名

内訳・ピアノを弾きながらの声かけ・弾き歌い・すらすら弾くこと・子どもを見ながら弾くこと(2)・緊張・指使い・時間がない(3)・速度(2)・覚えることの量、多さ・手元を見ないで弾く・その園のオリジナル曲



3、あなたの演奏、弾き歌いについて、現場の先生から何か言われたことはありますか？

- ①子どもの方を見てよかった 61名
- ②歌い出しを促せてよかった 15名
- ③先歌いが出て良かった 13名
- ④もっとピアノが弾けるとよい 18名
- ⑤弾きなおしが多い 8名
- ⑥ペダルが踏めるとよい 6名
- ⑦歌がもっと歌えるとよい 6名
- ⑧その他 46名

内訳・子どもがあやふやな歌詞は教師が先導する

- ・テンポの設定
- ・間違えても止まらない(3)
- ・先歌いができるとうよい(2)
- ・ピアノが上手
- ・声が大きくて歌が良い(6)
- ・どうしても止まったら「ごめんね。もう一度弾くね」とやり直した方がよい。
- ・実習生だからと言って今まで子どもたちが歌ってきた速度を壊さないでほしい
- ・子どもたちを見て弾く
- ・苦手と言っていたが弾けていた。もっと自信をもって良い(8)
- ・片手で弾いたところがあるので両手で弾けるとよい
- ・間違えずに弾けていたので子どもたちが歌いやすそうだった(2)
- ・つかえず止まらずに弾けている(3)
- ・歌う前に歌詞の確認をするとよい
- ・子どもたちをもっと褒めてほしい
- ・止まっても途中から入れたので流れが止まらず良かった
- ・リズムが速くならないように(2)
- ・笑顔が良かった
- ・ゆっくりでも弾けたら子どもたちが合わせてくれるから大丈夫
- ・子どもたちの歌に合わせて速度を変えていたのが良かった
- ・片手だけでも弾いて子どもたちと歌うことは良いことだよ
- ・暗譜ができていてよかった
- ・初め間違えていたが本番ではちゃんと弾けて良かった。

4、今回の実習で子どもたちの知らない曲を指導してほしいと言われましたか？

はい 13名                      いいえ 126名

5、今回の実習でピアノ以外の楽器(鍵盤ハーモニカ・カスタネットなど)を使った音楽指導をしまし

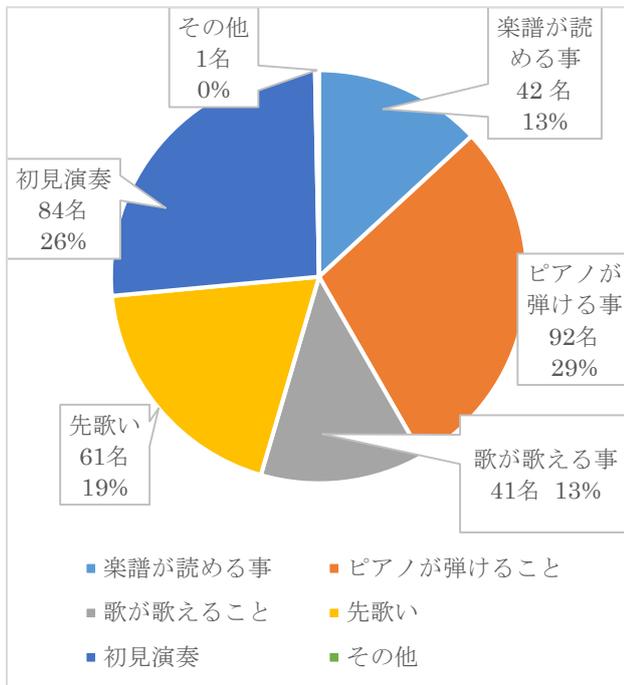
たか？

はい 12名 いいえ 127名

6、今回の実習でピアノや弾き歌いをした方もしなかった方も、もっとできるようになりたいと思ったことはありますか？

- ①楽譜が読める事 42名
- ②ピアノが弾けること 92名
- ③歌が歌えること 41名
- ④先歌い 61名
- ⑤初見演奏 84名
- ⑥その他 1名

内訳 子どもの方を見て弾く方法



7、ピアノの練習や弾き歌いの練習をするにあたって、あなたが一番困っていることは何でしょうか？

- ①楽譜
  - ア.音が読めない 37名
  - イ.リズムがわからない 71名
  - ウ.拍子がとれない 36名
  - エ.その他 6名
- 内訳
  - すぐ読めない(3)
  - へ音記号が読みにくい
  - 初見が苦手
  - 鍵盤の位置が分からない

- ②指使い
  - ア.決められない 55名
  - イ.適当 62名
  - ウ.弾ければ何でもよい 29名
  - エ.その他 6名
- 内訳
  - 自分の弾きやすい指にしてしまふ 5名
  - 指が痛い 1名
- ③拍子
  - ア.あまり意識しない 43名
  - イ.とり方が分からない 48名
  - ウ.リズムとの関係が分からない 32名
  - エ.その他 2名

- 内訳
  - 途中でずれる
  - 連符で急いでしまう
- ④歌うこと
  - ア.声のでにくい 60名
  - イ.音程がとりにくい 33名
  - ウ.歌い出しの声かけ (サンハイ・どうぞ等) 15名
  - エ.先歌い 63名
  - オ.その他 5名
- 内訳
  - 裏声だと声を通らない
  - 高音が出しにくい(2)
  - ピアノに集中すると歌が歌えない

- ⑤三段譜(両手で伴奏、歌のメロディが別)
  - ア.楽譜のまま弾く 59名
  - イ.メロディーを弾く 28名
  - ウ.子どもたちの様子を見ながら 臨機応変に弾いていく 58名
  - エ.その他 0名

(3) 考察

設問の1から4までは、実習生を迎えるにあたり、実習園ではどのような課題を出しているのか、また出す事によって、園側から考える現場に必要な音楽技術とはどのようなものか探る設問とした。

設問1の結果から、実習前のオリエンテーションで、概ね1曲から5曲の課題曲が渡され、それを練

習して実習に向かうことが多かった。これは、実習園の活動において、必ずピアノを弾き、弾き歌いを行うことの意味表示と考えられた。また、事前の課題が出ない園もあったが、ピアノを弾いたり、弾き歌いをしないわけではなかった。

設問2～4は、実習に行ってから出された課題曲がどの位あったか、またどのような形で出されたかを調べることによって、現場で必要とされるであろう具体的な音楽技術を探った。

設問2の結果、実習に行ってから課題が出る事は少なかった(66/173名)。曲数も1～2曲で、概ねその園で使っている生活の歌の類であった。

練習期間についても、渡されてその場ですぐ弾いた学生が1名、それ以外は3～4日、もしくは1週間ほどであった。

実習園に行ってから出される課題曲からは、実習をしながら練習ができるか、短い練習期間で子ども達と共に歌えるところまで仕上げる力があるか、またその努力ができるかを見ていると考えられた。努力をするかしないかについては、学生の資質と考え、ここでは触れない。

短い練習期間で曲を仕上げる際に、学生が何を苦手とし力不足を感じたか。音は、数えれば何とか読めるが、リズムが楽譜からでは解らない上に、拍子とリズムの関係も曖昧なため、大変難しかったという回答や、インターネットで動画を探し、リズムに関しては聞き覚えで弾いたという回答もあった。

また実習園側で考えるピアノ技術は、その曲や与えられた練習期間も踏まえ、自分の力で楽譜を読み、子どもの前で弾けるくらい仕上げる事の出来る自立した力と知識、そして判断力を望んでいるのではないかと考えられた。

設問3については、実習中に学生自身がピアノを弾いた時に担当教員から受けた指導を問いとしたり。概ね「弾けないと言っていたが弾けている。」「もっと自信をもって良い。」等、好意的なコメントであったが、中には、「子どもがあやふやな歌詞は教師が先導する」「歌う前に歌詞の確認をするとよい」

「子どもたちをもっと褒めてほしい」「子どもたちを見て弾く」「速度を変えずに弾く」等、より具体的なアドバイスも含まれていた。

この点から、現場に出るには、学生自身ができるかどうかよりも、先ず子ども達にどんな音楽を提供し、音楽の時間を共有するか、そのためにはどのような心構えと演奏技術、知識が必要なのかに観点があると推測できる。

設問4及び5については、ピアノや弾き歌いだけではなく、新しい曲を伝える力、その技法を持っているか、またそれ以外の楽器や、園の推奨する音楽活動において何かしらの指導をしたかという質問だったのだが、ほとんどの園で、ピアノや弾き歌い以外の事はなかったという結果を得た。これは、実習生であるため、そこまで要求しなかったというのが実習園の本音ではないだろうか。また、指導をしたという学生も僅かながら有ったが、歌の指導の場合は担任のサポート的な立場で、楽器については鍵盤ハーモニカの指導であった。

設問6では、今回の実習を終え、今後どのような音楽技術が必要と考えるかという質問をした。先ず、「ピアノが弾けること」という回答が多く、その次に、「先歌い」とあった。

「先歌い」とは、子ども達と初めての曲を歌う際に、まだ文字に目覚めぬ年齢の子ども達に口伝で歌詞を伝える一つの手法である。教員の模唱(もしょう)をしながら、歌詞やメロディを覚えていき、一通り最後まで歌ってみてから、ピアノと共に歌えるようにする。その過程で、教員がピアノを弾きながら、その歌詞の合間に、次の歌詞を投げかけていく方法である。子ども達がまだ歌詞を覚えることが曖昧であったり、歌える曲でも途中であやふやになった時などに大変有効な手法である。ただ、曲の進行を妨げることなく、タイミングよく歌詞を投げかける事、ピアノが鳴っていて子ども達が歌っているときに投げかけるので音量や発音に配慮する事、まだ完全に歌えていない場合にはテンポの設定にも配慮が必要である。

また、「初見演奏ができる」といって回答した学生も多く視られたが、これについては、「初見演奏」という言葉に誤解があるようであった。

本来、音楽における「初見演奏」は、楽譜を渡されて、その場で楽譜を読みすぐ演奏することであるが、これを「練習しなくても弾ける力」と考えている節が見受けられた。

設問7では、今現在困っていることを問いかけた。やはり、楽譜を読むことの中でも、リズムと拍子の意味と関連が混乱しているように感じられた。「両方ともよくわからない。」「できない。」という回答が多く見られた。先の設問3において、実習園の教員からもらったアドバイスの中にも、明らかに拍子の事を言っているにもかかわらず「リズム」と表現しているものもあった。その区別ができるようになるには、どのような方法があるだろうか。

演奏技術の一つである「指使い」（ここでは指使いの選択を指す）についても、書いてあればその通りに弾こうと思うが、書いてなければ自己判断で「適当」に弾くとあった。自己判断や「適当」に選ぶことが悪いことではなく、一番のポイントは「正解」が一つではないものに対し、自己判断ができないことのように思う。これでよいのだろうかという「不安」が一番大きな原因のように感じられた。

「拍子」についても、先ずあまり意識をしていないようであった。ただ、歌い出しの声かけや、場合によっては、体育のダンスなどの時には必ず拍子をとることが必要なのだが、それをリズムと勘違いし混同していると考えられる回答があった。

「歌うこと」については、「声が出づらい」「先歌いが必要だと思う」との回答が多くあった。

最後の「三段譜」については、ピアノの伴奏の中に歌のメロディを含まず、メロディとは別の伴奏を弾くことを示唆した楽譜を指している。子ども達が歌を最後まで歌えるように案っていく過程において、歌いやすく手助けすることを考えているか、それとも、とにかく楽譜通りに弾ければそれで良いと考えているかを探りたく思い設問した。まず、楽譜

通り弾ければ良いとする意見と子ども達に合わせて臨機応変に弾いていくとした学生が殆どであった。ただ、この臨機応変に対応するという意見には、どのように臨機応変にするのかという問いかけがないため、信憑性については不安が残った。

#### (4) まとめ

音楽は、園それぞれの考え方や教育方針で、必要とされる姿を変えることが多い。日々の生活やお散歩中にみんなで歌うことも音楽であるし、お教室でその日の生活の節々に歌うことも音楽。そこに重点を置く園もあれば、音楽による行事に力を入れ、それを教育の名のもと、園の特徴という名目で宣伝のために使われていることもある。

姿は変わっても、その現場にいる教員に必要な音楽技術は、やはり「楽譜が読める事」「ピアノが弾ける事」「弾き歌いができる事」と考える。

一口に「ピアノが弾ける」と言っても、それは何を指しているのだろうか。ある保育園の園長先生は、「季節の歌ぐらいは暗譜をして、いつでも弾けて歌えるようにしてほしい。楽譜にしがみついて、間違っっては止まることを繰り返すのは、何をしてきたの？と言いたくなる。でも、間違っではいけないと言っているのではないのよ、間違ったときに止まるしかないことがダメなの。」と話していた。また、茨城S幼稚園の副園長先生は、「とにかく弾けてほしいのよ。あんなに間違ってばかりでは、子ども達にとって歌うことが楽しいことではなくなってしまう。なぜ、あんなに車のブレーキみたいに止まって弾きなおすのかしら。」ある私立幼稚園の園長先生は、「ピアノは何とかなっても、歌えないから子どもが歌を覚えられないんだよね。学校では何を教えているの？」耳が痛いことである。

僅か3名の現場の先生方の意見からではあるが、「ピアノが弾ける事」とは、教員自身が自立して「弾き歌いができる事」（＜自分で練習できることも含む）「子ども達を歌わせられること」と考えられた。それは現場教員自身が、現場で使う音楽に対

し、演奏のためのより具体的な練習方法と知識、紙面の書かれたものを音楽にしていく為の自立した力を持っている事だろうと思う。

入学時、初学者であった学生は、養成校におけるピアノの授業において、「間違えないで弾くことが大切」という教育を受ける。もちろん、それはとても大切なことである。しかし、ここには危険が潜んでいる。「ピアノが弾ける事」は、何も考えずにその曲だけを必死で練習し覚えこみ、ピアノの鍵盤だけを見て、練習通りに再生する事ではない。やはり、ある程度時間が掛かっても楽譜が読めて、自分で曲を紐解き、弾き歌うことが必要と考える。この積み重ねが、自立につながると考える。

今回のアンケート調査で、実習に向かう学生たちは、間違わずに弾けるか、子ども達の前で弾いて歌えるかと主観的な不安と緊張を抱えながら現場に立ったことが現れた。しかし、現場を経験し、子ども達と共に歌うこと、その時間を共有することが大切であることを学び、現場教員のアドバイスもあり、学生自身の視点が大きく変化していると感じた。自分自身が、子ども達に対して何をしなければならぬのか？そのためには、卒業までにどのような技術を身に着けたいか。その変化が、後半の設問への回答に表れていると考えている。

では、「現場に使える力」⇒「楽譜が読める事」「ピアノが弾ける事」「弾き歌いができる事」が身につくようにするには、どのような工夫ができるだろうか。

私は、幼稚園教諭や初等教育課程教員、保育士に必要な音楽技術は、母親の手料理のようなものではないかと考えている。いろいろなジャンルの料理が日々食卓に並ぶが、決して母親はその料理の専門家ではない。でもちゃんと中華は中華に、イタリアンはイタリアンになり、毎日飽きずに食べることができる。空腹の欲求を満たし、食卓のコミュニケーションによる心理的な満足など、母の手料理による食事の時間の楽しさが家族を支えている。外食が続くと美味しい筈なのに、なぜか飽きてくる。そう考え

ると、現場に必要な音楽技術の「楽譜が読める事」「ピアノが弾ける事」「弾き歌いができる事」の基本は、至ってシンプルに思える。レシピにかかっていることの意味が分かり（⇒音読み）、計量し（⇒定期的な刻みの拍、相対比率のリズム）、調理をする（⇒演奏）、できたものを皆で食す（⇒子ども達と共に弾き歌う）。料理が上手くなるためには、日々の繰り返し（⇒練習）と、その繰り返しのためのアドバイスがもらえる事。その上に、教員になるならば「指導法」も含まれていく。

養成校の授業では、決められた30回の授業の中で（内、2回は試験となるため、実質28回）拍子、リズム、音読み、演奏技術を伝え、美しい日本語で歌うための技術を伝え、歌を伝えるための技術を伝える。一人の学生に割り振られるレッスン時間は、概ね10分前後であるから、現実的には難しい。しかし、できる事だけやればよい、こんな簡単な子どもの曲と考えるのではなく、学生にかける言葉一つずつを選びながら、現場で使える力をつけるために、より具体的に授業内容を充実させ教材研究をすることが大変重要で、必要と考えた。

また、音だけ読めても楽譜は読めないし、読めるだけでは弾けないように、音楽は多くのことがリンクしてできている。学生にそこに気付いてもらうために、弾けたか弾けなしかだけの判断ではなく、学生の意識を変えるための配慮した言葉がけが大切ではないかと思う。それは、一人の教員が伝えるのではなく多くの力を借りてできる事と考えている。

最後に、アンケートの最後の設問で、学生の思うところを質問した。そこに書き込まれた意見をいくつか挙げる。学生の本音が垣間見える。（誤字脱字、全て原文のまま）

教員としての自分の姿を見直す一つの方法とした。

**設問9** 実習で弾いた、弾けなかったに限らずあなた自身がピアノを弾くことや弾き歌いを学ぶ上で、何か考えることがありましたらお書きください。

- ・先歌いを詳しくしてほしい。
- ・歌詞の文字数によって音符を増やしたり減らしたりしてよいのか。自分なりに弾きやすいようにアレンジを加えて良いのか。
- ・音量が足りない(ピアノを足すと余計に出なくなる)。
- ・担当する先生によって、なぜ評価が違うのか(歌えれば丸を上げる。ミスしないでしっかり歌も歌えないと丸をあげない。なんとなく出来れば丸をあげる等)
- ・真後ろに子ども達がいたので、手元を見ずに弾けるようになるまで練習が必要だった。
- ・初めてもらった曲(初めて聞いた曲)の練習の仕方が難しかった。
- ・普段楽譜を見ながら弾いているので、子どもの方を向いても、表情などを意識して見るができなかった。
- ・手元を見ずに弾けるようになりたい。そしたら子ども達の方も見える。
- ・ピアノを弾くうちに音符がスムーズにけっこう読めるようになった。また苦手なので、今後もっと練習時間を増やしていこうと思います。弾けるようになりたいです。
- ・楽譜通りに弾けても歌が上手に歌えていないとダメだと思った。
- ・もっとリズムや音程について詳しく教えてほしい。
- ・ずっとリズムがわからなかったので楽符を正しく読めないことがあったけど、授業でやってわかるようになったのでよかった！
- ・先生によって合格基準が違うこと。
- ・ここがダメとわかりやすく言ってほしい。
- ・先歌いは現場ではあまり使わないと言われたが、私が行った幼稚園は先歌いをしていたし、必要だと感じた。
- ・ピアノを大学に入ってから初めたので、指づかいや楽譜読みにとまどってしまいます。数をこなすのが一番の慣れる方法だと思うけれど、読む、歌う、

弾くための初心者へのコツとか教えてもらえると、慣れるのも練習するのも楽しくできるのではと思いました。

- ・黄色い教科だけでは現場に出ても足りないと思った。実習では知らない曲ばかりだった。
- ・新しい歌の歌詞の教え方が難しい。
- ・器楽の先生に裏声で歌うよう指導いただいたが、実習の先生は自声(正=地声)で歌っていた。どっちが好ましいのか疑問に思った。
- ・ペダルの使い方を知りたい。
- ・知らない曲を弾く時は、事前に動画などで曲を聞いてから練習をしました。練習ができてから暗譜をし子どもたちがいる設定で目を向けながら練習をしました。先生(自分)が楽しく歌をうたえば子どもたちも楽しくうたをうたっていて、とても嬉しかったです。
- ・拍子とリズム、音の長さがよくわからないから、楽譜通りに弾けているのかわからないから不安。
- ・幼稚園、保育園、実際に現場に出て使われている曲などをより多く練習していきたい。
- ・アレンジをしたり、声の高さに合わせて音階を変えられるようになりたい。
- ・ただ弾いていても子どもたちは楽しくないと思った。保育士の声がけや対応で、歌うことが楽しくなったり、子どもたちの頭にも残るのだと学んだ。
- ・ピアノは苦手でももちろん弾けた方がプラス面になるし、子どものためにもなる。私は一年生の頃に全くピアノが弾けず、クラスの中でも授業においていかれるタイプでしたが、それが悔しく感じたのと、このままではいけないと考え、練習に励んだら、ピアノが次第に好きになりました。これからも頑張りたいです。
- ・現場の先生たちもあまり弾けていなかった。でも先生の伴奏がとまってしまうと子どもの歌もとまってしまうから私はピアノがしっかり弾けるようになりたいと思った。
- ・1年生の最初の方から楽譜を読む練習をしておけばよかった。

・どんな声がけをすれば子どもたちがうたってくれるか、うたが好きになってもらえるか、大きな声だけではなく、感情をこめてうたってくれるかを学んでいきたいです。

・楽譜通りに弾くことより、止まらずに子どもがうたえることが重要であると考えます。なので学内の器楽は現場で本当に役立つものなのか疑問に思う。

・普段ピアノを弾くときは自分だけのために、うまく弾けるように弾きますが、実習で弾いた時には子どものために、歌いやすいように弾くことが大切だとわかりました。普段の練習でも心がけたいと思いました。

・子どもたちにとって歌は、言語を学ぶことでもあるため、保育者がきちんと言葉を発しなければいけないと思いました。

・ピアノを弾きながら子どもと一緒に歌うときに、先歌いをするタイミングが分からなかったため、そこをこれから考えていく必要があると思いました。

・私は、ピアノを弾くことが苦手ですが、子どもたちと共に歌っていく中で、ピアノを弾く楽しさや子どもたちに歌を教える楽しさを感じました。私が、気持ちを込めてピアノを弾くと、それに子どもたちがこたえてくれて、一緒に懸命に歌ってくれるのが嬉しかったです。

・ピアノを弾きながら子どもの様子を見ていない子ども達もいたので、楽しく歌えるようにどのような雰囲気をつくっていくことが大切なのかを考えることのできる実習になりました。また、先歌いは歌によってできたりできなかったりしたので、どの曲でもできるように練習が必要だと感じました。

・私はピアノがあまり得意なほうではないので、自信はないのですが、子どもの前で伴奏し歌ってくれたという経験は緊張もしましたが、とても楽しかったです。

・拍子やリズムがわからない。たまにリズムを間違えて練習をしてしまいます。

・うたう楽しさを子どもに実感してもらうために子

どもの方を見ながらうたう大切さを学べた。ただ楽譜通りにピアノを弾くのではなく子どもの様子を見てリズムなど変えてうたいやすくしてみた。歌に振り付けをつけてもつとうたをうたうことに楽しさなどを味わえるような工夫をしたいと思います。

・先歌いをする大切さが分かった。保育者自身が楽しく歌うなどの姿を見せることで子どもたちも楽しんで歌えるように感じた。

・上手に弾こうとするのではなく、子どもと歌をうたい楽しい雰囲気を共有するという気持ちで取り組むことが大切であると教えていただきました。またうたうことを通して何を感じてほしいか、具体的に自分の中で考えることも大切だと指導いただき、事前の教材研究、練習がいかに重要か考えさせられました。

以上